allcinema

我が道を往く（1944）

GOING MY WAY

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 130分
初公開日 1946/10/02
公開情報 セントラル

【解説】

誰もが納得できる映画というのはそうあるものではないが、この作品の押しつけがましくないヒューマニズムに感ずるものの無い人は、それこそ聖書でもひもといてみる必要がありそうだ。それは役者クロスビーの人柄に負うところ大で、クルーナーの第一人者である彼の深みのある温かな歌声は、それこそアメリカ音楽の至宝なのだが、その歌声同様に真摯な演技者としての才に全く驚嘆させられるのが本作。ＮＹ下町の教会を自ら築き４０年護ってきた老神父フィッツギボンの後任を命ぜられ赴任した神父オマリーだが、老師の心情を察し、あくまでも表立たず行動しようとする。そこへ、若い彼の実践主義に違和感を持った老師は、司教にその転任を願い出て逆に真相を知らされて衝撃を受ける。一度はオマリーの奮闘で経営危機を脱した教会が焼失。オマリーは自ら結成した聖歌隊（構成員の悪ガキたちにごく自然にハーモニーの楽しさを教える場面も素敵だ）をバックに、実はかつての想い人だった（眼差しだけでそれが分かる）、今はメトロポリタン・オペラのプリマのジェニーの協力も得て、自作曲の売り込みを図り、再建の資金を得ようとする。自信作“我が道を往く”は高尚すぎる－－と受けなかったが、その後、何気なく歌った“星にスウィング”（オスカー受賞曲）が買われる。その他、家出娘の歌手志望キャロルと家主の息子テッドの若い恋の応援もさらりと描かれ、オマリーの人間味をあぶり出す。そして、新しい任地へ赴く彼が老師に贈ったクリスマス・プレゼントとは…。この素晴らしいラストは他言無用。名優フィッツジェラルドの人間臭さがまた一気に吹き出る名場面だ。続編は「聖メリーの鐘」。

【クレジット】

監督	レオ・マッケリー	Leo McCarey
製作	レオ・マッケリー	Leo McCarey
原作	レオ・マッケリー	Leo McCarey
脚本	フランク・バトラー	Frank Butler
	フランク・キャヴェット	Frank Cavett
撮影	ライオネル・リンドン	Lionel Lindon
特殊効果	ゴードン・ジェニングス	Gordon Jennings
作詞	ジョニー・バーク	Johnny Burke
音楽	ジェームズ・ヴァン・ヒューゼン	James Van Heusen
	ロバート・エメット・ドーラン	Robert Emmett Dolan
出演	ビング・クロスビー	Bing Crosby
	バリー・フィッツジェラルド	Barry Fitzgerald
	リーゼ・スティーヴンス	Rise Stevens
	ジーン・ロックハート	Gene Lockhart
	フランク・マクヒュー	Frank McHugh
	ジーン・ヘザー	Jean Heather

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

ジェームズ・ブラウン	James Brown
ポーター・ホール	Porter Hall
フォーチュニオ・ボナノヴァ	Fortunio Bonanova

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.